

## 第 49 回衆議院議員選挙をたたかい抜いた J R 総連見解

第 49 回衆議院議員選挙は 10 月 31 日に投開票を迎えた。J R 総連は「憲法 9 条を守り、平和で安心して暮らせる社会の実現」に向けて、各単組と連携して 68 名の候補者の推薦を決め、すべての候補者を国政に送り届けるために組合員・家族・OB とともに一丸となって奮闘してきた。

その結果、68 名の推薦候補者のうち 35 名の候補者の当選を果たすことができた。あらためて、この間、職場、地域から推薦候補者を支え最後まで応援し、この厳しい選挙戦をたたかい抜いてくれたすべての仲間に感謝を申し上げる。

今回の衆議院議員選挙は、自公連立に政権を委ね続けるのか、立憲民主党など野党勢力に政権を託すのかといった政権選択を迫られた。また、新型コロナウイルス感染症から国民の命と暮らしをどう守るのかはもちろん、感染拡大で停滞した経済を立て直し、安倍・菅政権の 9 年間で歪められた平和・人権・民主主義を取り戻すたたかいでもあった。

一方、立憲民主党をはじめ、共産党、国民民主党、社民党、れいわ新撰組による野党は、全国 289 選挙区のうち 213 選挙区で候補を一本化してたたかった。しかし、野党共闘は伸び悩み、立憲民主党は議席を 110 から 96 に減らす結果となった。また、投票率が 55.93% という戦後 3 番目に低い水準にとどまった現実、有権者に政権交代への思いが響いたのかも問われた。

さらに、連合の内部からも共産党も含めた野党共闘に対する反発も生まれ、政権交代に向けた勢いは必ずしも一致したものではなかった。その結果が、与党に利することにつながったのは言うまでもない。

よって我々は、来年の夏に控えている参議院議員選挙に向けて、課題の検証と立て直しを迫られている。

この衆議院議員選挙で自民党は単独過半数を維持し、自民党と公明党が 293 議席を獲得し、絶対安定多数を許す結果となった。さらに、与党と改憲に積極的な日本維新の会などが改憲発議に必要な 3 分の 2 を超える結果となった。この結果に我々は強い危機感を持つとともに、憲法 9 条を守り抜くために 9 条連や地域の仲間との連帯や各単組との共闘をさらに強化していかなければならない。

J R 総連は国民投票の発議も視野に入れつつ、改憲阻止に向けたたたかいのさらなる強化・拡大に向け、仲間の力を結集させて奮闘していく。

そして、J R 総連推薦議員懇談会のさらなる拡大を通じて、J R 総連ならびに各単組が抱える政策課題の実現に向け、相互に連携を強化しつつ課題の解決をめざして取り組むことを明らかにし、第 49 回衆議院議員選挙をたたかい抜いた見解とする。

2 0 2 1 年 1 1 月 1 日

全日本鉄道労働組合総連合会（J R 総連）